

10周年記念史の発刊にあたって



奈良先端科学技術大学院大学長
鳥居宏次

21世紀最初の年に創立10周年を迎え、ここに記念史を発刊できることは、現職の教職員のみならず、諸先輩方や関係各位のおかげと心から感謝している次第です。

1991年10月の創設以来、情報科学研究科では1993年から、バイオサイエンス研究科では1994年から、物質創成科学研究科では1996年から学生を受け入れ、これまでに博士前期課程は1,793名、博士後期課程は188名の修了生を輩出するに至りました。

このように、本学が一步一步着実に歩みを進めてきた10年の間、国立大学を取り巻く環境は大きく変化し、大学の構造改革の一環として進められてきた国立大学法人化まで後2年というところまで迫っています。環境の変化が、本学創設時からの基本的な考え方に影響を与えるものではありませんが、研究・教育等の活動は常に社会の要請に柔軟に対応するものでなくてはなりません。

20世紀最後の10年間には、インターネット技術、ゲノムシーケンスの解明、分子レベルのナノテクノロジー技術など本学の3研究科と直接関連する科学技術が進歩しました。現在、本学の各研究科における研究領域は、我が国が目指す重点4分野に概ね対応していますが、今後は予期しない経済環境の変化に備え、大学の使命も短期的なものの中長期的なものとの区別を明確にしておくことが必要です。少子化や高齢化も現実の問題となり、優秀な学生の確保にも苦勞する現在、社会からは、以前にも増して有為な人材養成に対する期待が膨らんでいます。

大学院しか持たない新しい大学のモデルとしての時期が過ぎ、あらゆる面でさらなる具体的な成果が求められています。午年に疾駆する大学の姿をお見せできる栄誉を得た今、次の午年の更なる雄姿に思いを馳せながら、明治以来といわれる大きな大学の構造改革を乗り切る覚悟をしております。

関係各位の絶大なるご支援により、式典を始めとした各種記念行事を行うことができました。いずれ記念植樹で植えられた木々が成長するにつれ、果実がたわわに実る「知の森」が実現することでしょう。

最後になりましたが、この度の記念史発刊に際し、執筆を快くお引き受けくださった櫻井 洸 初代学長、ならびに 山田康之 前学長に厚くお礼申し上げますとともに、編集執筆にあたってこられた委員の先生方をはじめ、多くの関係者に深く敬意と感謝の意を表します。